

## 会議録

会議の名称	西東京市子ども子育て審議会 計画専門部会 第5回
開催日時	令和元年5月27日（月曜日）午後6時30分から8時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	部会員：谷川部会長、石橋部会員、尾崎部会員、菅野部会員、古川部会員、吉野部会員 事務局：子育て支援部長 古厩、子育て支援課長 清水、子育て支援課主幹 岡田、保育課長 遠藤、保育課主幹 海老澤、西原保育園長 武田、けやき保育園長 笹本、児童青少年課長 原島、子ども家庭支援センター長 八矢、子育て支援課 栗林、八巻、保育課 増岡、古川
議題	1 報告 西東京市子育て支援ニーズ調査 結果報告書について 2 議題 (1) 今年度のスケジュールについて (2) 子どもアンケートについて 3 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市子ども子育て審議会計画専門部会委員名簿 資料2 令和元年度子ども子育て審議会計画専門部会 開催スケジュール（案） 資料3 子どもアンケート概要 資料4 子どもアンケート案 西東京市子育て支援ニーズ調査 結果報告書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 報告 西東京市子育て支援ニーズ調査 結果報告書について</p> <p>○谷川部会長： 事務局から説明をお願いします。</p> <p>○事務局： 現行のワイワイプランでは保護者への意見聴取の結果として、平成25年度に実施した前回のニーズ調査結果を掲載している。そこで取り上げられているものについて、今回の調査ではどうだったのか説明させていただく。 &lt;8頁 就学前児童調査&gt;&lt;100頁 小学生調査&gt; 子育てを主に行っている方を尋ねる設問で、前は「父母ともに」が57.4%で、今回は5ポイント落ちて52.4%になっている。「主に母親」が前は39.0%だったが、今回は44.6%と少し上がっている。 小学生の保護者については、「父母ともに」は前回は57.0%で、今回は56.1%と1ポイントほど下がり、「主に母親」が前は37.9%だったが、今回は40.7%と少し上がっている。 &lt;14頁・16頁 就学前児童調査&gt; 保護者の就労状況はニーズ量に直接的な関わりのある項目である。前回調査と比較す</p>	

ると、父親の方にはそれほど動きはない。母親の方では「フルタイムで就労」と「フルタイムで就労（産休・育休・介護休業中）」の合計で見ると、前回は32.2%、今回は42.8%と10.6ポイント増加している。

#### <25頁 就学前児童調査>

幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育の事業を利用していますか、という問いに対しては「利用している」が前回は68.6%、今回は74.2%で5.6ポイント増加している。前々回の調査では「利用している」は50.5%であり、5年ごとに利用率が高まっていることがわかる。

#### <115頁 小学生調査>

お子さんは放課後の時間を、現在、どのように過ごしていますか、という問いについては、傾向は前回調査と大きく変わってはいないと言えるが、「学童クラブ」については、前回は17.3%で、今回は22.1%と前回から4.8ポイント増加している。さらに、「学童クラブ」の平均利用日数は4.1日で、他の項目より高くなっている。平日の利用回数を聞いているので最大値が5.0日と考えると4.1日という値はかなり高いと考えられる。

#### <118頁 小学生調査>

お子さんの学年別放課後の過ごし方について。児童館・児童センターは、小学1～4年生の割合は8.8%、12.6%、12.5%、19.0%となっていて、小学5～6年生は6.7%、7.7%と少なくなる。公的な居場所については、小学4年生までと、小学5年生以上とは違いがあると言える。国から、次期子ども・子育て支援事業計画では放課後児童クラブについて、実施状況や受け入れ体制の有無にかかわらず、見込み量を学年ごとに出すよう努めることとされている。

#### <124頁 小学生調査>

お子さんの学年別の放課後の希望の過ごし方について。小学6年生の数値を見ると、「下校後にずっと自宅にいる」は現在の過ごし方では68.5%であるが、今後の希望では53.3%と減っている。「文化に関する習い事」も現在の過ごし方では19.6%だが、今後の希望では37.0%あり、何かやりたいという気持ちがうかがえる。公的な居場所は、「児童館・児童センター」は現在の過ごし方では7.6%、今後の希望では12.0%、「放課後子供教室」は現在の過ごし方が2.2%、今後の希望は4.3%となっている。この表は上段が人数で下段が割合(%)であり、人数では多くないものもあるが、意向の割合ということではこのような結果が出てきている。

#### <90頁 就学前児童調査><154頁 小学生調査>

現行のワイワイプランには載っていないが、この部会において設問設計の段階から議論されてきた「あなたはお子さんをたたくことがありますか」という設問について。「たたく」という表現の回答者による捉え方の違いも議論されたが、前回調査との比較も必要との観点から同じ文章表現で質問をしたところ、就学前児童調査も小学生調査も「よくある」「たまにある」は減り、「ない」が増加している。

#### <89頁 就学前児童調査><154頁 小学生調査>

「あなたは自分を好きですか」という自己肯定感を尋ねる設問について。「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、就学前児童調査も小学生調査も前回調査より自己肯定感が減少している傾向がわかる。

自己肯定感と、たたく、たたかないとの関係についてはクロス集計をしているが、明確な相関関係が出たとは言えない結果である。

○谷川部会長：

お気づきになったことや意見などがあればいただきたい。無償化などがある保育の過渡期に実施する調査となったため、いろいろと難しいこともあったと考える。

放課後の過ごし方のところは、現在と今後で過ごし方を尋ねているわけだが、やはり塾の要望が多いということだろうか。

お気づきの点などがあれば、事務局にメールで連絡してもらうかたちでも構わない。

今後、計画の見直しをしていく際には、この調査報告書を参照しながら検討していくことになるので、またその時に気づいたことなどを教えていただければと考える。

○尾崎部会員：

172頁の1番上にある「保護者の多様化した就労状況にも対応できる子育て支援をしてほしい（社員or自営、フルタイムorパートなどの簡単な区切りではあてはまらないこともあるので）。」という自由回答が気になった。

全体の統計の中で母親の就労率は上がっているが、正社員としてではなく、どちらかというとなら非正規で、就学前に関しても、幼稚園の預かり保育の方にニーズがあるというのは、非正規雇用の方が増えていて、いわゆる多様な働き方が広がってきている証拠なのではないだろうかと感じた。

自由回答の中にも、「多様化した就労状況」という語句が出てきているので、そのような状況に対して市としては情報提供をしていくことはもちろんのことだし、うまく対応していけるようにしなくてはいけないのではないかと感じた。

○谷川部会長：

正規・非正規だけでなく、フリーランスや在宅ワークの方もいらっしゃる。これからも多様化はどんどん進むので本当に難しくなってくると感じる。

○吉野部会員：

ニーズ調査の話からは離れてしまうかもしれないが、先日、区部の認証保育所の方と話す機会があった。区部では、外国人の子どもがとても増えていて、中国、韓国、ネパール、インドネシアなど、多様な国からのお子さんが通ってきている状況になっているとのことだった。これから外国人就労者が増えてくるにあたり、だんだんと区部から市部へと移ってくることが予想されている。私の園ではまだ外国人のお子さんはいないが、具体的に外国籍の子どもたちの受け入れについて考えていかなければならないのではないかと感じている。これからは、外国籍の子どもたちをどう支援していくのかなど、これまでとは違った角度からの調査が必要になってくるのではないだろうか。

○谷川部会長：

事務局に確認したい。外国人の方から保育の相談があったり、学童クラブへの入所の相談があったりするものはあるのか。

○事務局：

保育所では、外国人の子どもを受け入れている。

○谷川部会長：

相談件数は増えてきているのだろうか。

○事務局：

人口を見てみると、就学前の方も外国籍の方は増えている状況にある。

○谷川部会長：

多文化共生の活動をしている団体や小学校や中学校の中に日本語学級などはあるのだろうか。

○事務局：

小学校の中には学級はないが、外国語を教える方がいるNPOの協力をいただきながら、外国籍の子どもや日本語が話せない子どもに対して教えてもらっている。

○古川部会員：

他の地域でもいろいろな事例はあると聞いている。実際に入園してきてから、両親とも日本語の読み書きができない状況で、電話でも難しいので、連絡事項については直接会って、絵を描いて説明したり、英語を交えて話してみたり、さまざまな工夫をしているとのことだった。外国籍の方も多様化していて、施設ごとの努力に委ねられている状況にある。市の組織にしかるべき部署があって、翻訳の手伝いをするとか、よくある質問とその回答をまとめた手引書やマニュアルを作成して配布できれば、受け入れる施設側はかなり助かると思う。

○谷川部会長：

保育園の入園の冊子は日本語版だけになっているのだろうか。

○事務局：

現状は日本語版だけとなっている。

○谷川部会長：

おそらく自治体によっては複数の言語に対応していると思われる。対応しないと孤立してってしまう。もしその方々のお子さんが保育園で困りごとがあった場合にたいへんと思う。

少し嬉しく思えるのは、171頁の上から2番目の窓口・相談・情報・手続きのところ。「このアンケートを見た中でも『これは知らなかった』ということがありました。」という自由回答がある。これは以前、話題になっていた。病児・病後児のことなど、よく考えてアンケートは作らなければいけないと感じた。

他に意見はないだろうか。

○古川部会員：

84頁の間35「子育て全般のこと」は、気にしていた箇所、設問についても、否定的にならないようにいろいろと工夫している。「子どもとの生活が楽しい」は98.1%で、「子どもの成長が楽しみ」は99.2%もあり、多くの方々が楽しいと感じていることが読

み取れるので、とても嬉しい気持ちになる。保護者にとって、「子育てはたいへん」というマイナスのイメージもあるが、いざ実際に質問してみると「あらためて聞かれると、子育てって楽しいな」とプラスに考えられるようになるのではないか。これらは西東京市らしい、独自の設問になっているのではないだろうか。⑦の「一人ぼっちで子育てをしている感じがする」も入れた方がいいと判断して入れたものだが、31.2%の方が実際にはこのように感じていることを把握できてよかったのではないだろうか。そのように感じてしまう方々への支援も考えていかなければいけないと思う。

○谷川部会長：

「子どもとの生活が楽しい」と「子どもの成長が楽しみ」がこれだけ高い数値だったことはよかったと思う。

○古川部会員：

質問の仕方の大切さを改めて感じる。誘導尋問になっているようなアンケートもたくさんあるので気を付けなければならない。

○谷川部会長：

153頁の間33は小学生の保護者に対する同じ設問であるが、「子どもとの生活が楽しい」と「子どもの成長が楽しみ」については、わずかではあるが就学前の数値よりも減っている。子どもが中心ではなくなる時期ということもあるのだろう。

○古川部会員：

テストなど、悩み事が出てくるということではないだろうか。

○谷川部会長：

他の家の子どもと比べてしまったりする頃でもある。また「子育てに関する経済的な負担を感じる」は、就学前児童69.2%から小学生75.8%に増えている。

○古川部会員：

「一人ぼっちで子育てをしている感じがする」については、就学前児童31.2%から小学生27.2%へと減っている。やはり自分の子どもについての現実的な悩みが増えてくるということではないだろうか。

○谷川部会長：

小学生調査では、お子さん全員が学校に所属していることになるので、先生とのつながりを持つことができ、不安や悩みを分けあっているのかもしれない。

85頁は幼稚園・保育園を利用しているか、していないか別の「子育て全般のこと」となっている。「一人ぼっちで子育てをしている感じがする」を見てみると、利用している人が、利用していない人よりも若干ではあるが、「よく感じる」の数値が高くなっている。

○古川部会員：

他者との比較が起きてしまうからではないだろうか。

○谷川部会長：

全般的にそのような傾向は見られる。

○尾崎部会員：

幼稚園・保育園を利用しなくて済んでいるということは、既に一人ぼっちではない、ということかもしれない。

○古川部会員：

それもあと思う。うまく周囲の方々の協力を得られているのではないか。

○谷川部会長：

他に意見はないだろうか。

○古川部会員：

168頁の自由回答の上から3番目で、「幼稚園の夏・冬・春休みなど、長期休みの際、保育料に加え、長時間のための預かり保育の保育料が高額で、仕事を抱えていると困る。兄弟が入園すると、預かり保育の料金も倍になるので悩んでいます」という問題提起がされている。幼稚園でも預かり保育ができるようになったのはいいことだとは思いますが現状ではあまりにも補助が少ない。この部分が高額になっているのは問題なので、考慮していくべきだと考える。新しい制度においては、預かり保育についての補助はあるが、要件が厳しくてかなり働いていないと利用できない。保育園においても、短時間、長時間、延長と分かれているのだから、預かり時間が短時間であっても、それに合わせた補助が出るように緩和していくべきなのではないだろうか。

○谷川部会長：

幼稚園の預かりを利用して仕事をしている人も多いわけなので、この部分については変えていく必要があるという意見だと思う。

○石橋部会員：

79頁の間32②にファミリー・サポート・センターの利用満足度を尋ねる設問があり、前回調査は「満足」と「まあまあ満足」の合計が80.9%で、今回は100%になっている。そもそもファミリー・サポート・センターは10年位前に始まった制度で、前回の調査の頃は、利用者の方がまだ制度をよく理解していない状況で使っていたと思われる。それに対して今回は制度をすべて理解してもらった上で使ってもらっているので、100%になっていると推測できる。

○谷川部会長：

この設問については、回答者数が前回は21名であるが、今回は12名なので、少し減ってしまっている。そうした影響もあるかもしれない。

○古川部会員：

利用されている方々にとっては、とてもありがたいと感じて使われているのではない

だろうか。

○石橋部会員：

基本的には隙間を埋めていく部分があるので、すべての要求には応えることは難しい面はある。ボランティアで対応していることから、マッチングがうまくできるかどうか大きい。今回の調査においては、満足して利用されている方々が多いということはあると思う。

○谷川部会長：

ひとつ前の78頁の問32①については、今回の調査で新設した設問で、ファミリー・サポート・センターにどのようなことを依頼したのか、という内容になっている。この設問を検討する段階でも、例えば「預かり」より「送迎」が増えているというように、依頼の内容に変化が出てきていることは言われていた。また、前々回の調査の回答数を見ても37名となっている。37名が21名となり、今回が12名となっている。このデータを見ても、提供会員の方々とのマッチングは難しい面があると考えられる。しかし、数が少ないことを問題にするのではなく、いろいろなニーズに対応して、さまざまな支援を組み合わせる利用できるようにすることが大切ではないだろうか。

この調査報告書について、引き続きうまく活用していきたいと思うので、また新たな意見などがあればお寄せいただきたいと考える。調査報告書については以上とする。

## 2 議 題

### (1) 今年度のスケジュールについて

○谷川部会長：

事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料2について説明)

○谷川部会長：

このスケジュールについての質問などはあるか。

(特になし)

○谷川部会長：

今年の専門部会については、ミッションがたくさんあるが、部会員の皆さんにはよろしくお願ひしたいと思う。

### (2) 子どもアンケートについて

○谷川部会長：

事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料3・4について説明)

○谷川部会長：

問2の選択肢の並び順については、なるべく楽しくて夢中になれるようなものを上の方に持ってきた方がいいのではないだろうか。現在の並び順はその逆になっていて、楽しそうなものがほとんど下の方にきてしまっている。「18 LINEなどネットで友達とやりとりをしているとき」という選択肢があるが、今はInstagramやツイッターなどもある。また「20 インターネット」については、動画サイトを観るということも含まれるのだと思う。そのあたりの但し書きを整理した方がいいのではないだろうか。

○吉野部会員：

確認になるが、「17 仕事・アルバイト」はなぜ選択肢に入っているのだろうか。

○谷川部会長：

前回の調査で16・17歳にも児童館などで話を聞いたからであろう。今回は小中学生対象なので、何かの分野のプロでなければ該当しないので、選択肢の順番を下げるか、削除してもよいと考える。

問2の選択肢については、できるだけ楽しそうなものを上に持ってくるということと、選択肢の18と20を精査していただきたいと思う。

○菅野部会員：

私は、性別の選択肢をなぜ「男・女・その他（ ）」という書き方にしたのかがとても気になる。「その他（ ）」はない方がいいと思う。

○谷川部会長：

最近、性別に選択肢を設けなくて、自分で書いてもらうというやり方をしている自治体も多くなってきている。今回の場合は、アンケートを記入してもらうのが子どもなので、自由記述で大丈夫かどうか。小学校5年生なので書けるとは思うが。

○菅野部会員：

中学校の人権作文などでは、男性・女性という性別については削除している。私たちはすでにそのようにしているので気になってしまう。

○谷川部会長：

男の子の場合、女の子の場合という分析自体をしないので、性別を尋ねるような設問はやめた方がいいのではないだろうか。

○尾崎部会員：

「男・女・その他」はそのままにして、「その他」の後にある「（ ）」を取るかたちではどうだろうか。「その他（ ）」としてしまうと、「（ ）」の中を記入しなければならなくなってしまう。答えたくないのだから書かないという行動を選択できるようにすればいいのではないだろうか。「（ ）」をなくすことによって、「その他」を選択する子どもが出てくる可能性がある。現場では、LGBTについての教育は進んでいるの



で、意識的になっているところはある。変な言い方になってしまうが「聞いてほしい」というところもあるのではないかと思われる。子どもたち自身の中に、自分が「その他」であるということ掘り出すひとつのきっかけになるかもしれない。

○菅野部会員：

学校教育の中で既に取り組んでいるのだろうか。小学校でもそうなのだろうか。

○尾崎部会員：

私の職場は中学校だが、LGBTあるいはLGBTQという言葉は出てきているので、生徒たちはとても意識的になっていて、資料を提供した際には、興味深く見ている生徒も数多くいる。小学生については、確かに難しいかもしれないが、中学生と16・17歳が含まれているところには、「（ ）」を取り除いた「その他」にして選択できるようにすれば、反映されるのではないかと思う。

○谷川部会長：

賛否両論のあるところだと思う。「その他」とされること自体で傷ついてしまう人たちもいる。どちらにも含まれないというニュアンスをとる人もいる。一方でそこにアイデンティティを持つ人は男とも女とも違うということ聞いてほしいだろう。

そもそも、性別を問う設問は必要なのだろうか。男女別で集計したデータを使うのであればわかるが、その必要がないのであれば、削除するということも考えられる。

○石橋部会員：

集計して、何歳の男はこのような状況にあるということがわかるわけなので、入れておく必要はあるのではないか。後でどう使うのかということにもよるが。

○谷川部会長：

この設問の内容で男性と女性の性別を分けて集計する必要性はないのではないだろうか。例えば、女子が大人にお願いしたいことはこうであるが男子はこうである、という比較について、もしそれを分析するのであれば、男子につけた人はこう、女子につけた人はこう、その他につけた人はこうと集計しなければならない。でもそれは性別に関係がないので、ナンセンスではないだろうか。

○石橋部会員：

しかしそれがないと、男女が大きく分かれた時には集計がとれなくなってしまう。男子はこうだった、女子はこうだったと言えなくなってしまう。

○谷川部会長：

だから、男女という性別ではとらないようにすればいい。比べることはしない。

○石橋部会員：

この部分の結果を表に出す出さないは別として、個人的には「その他」という書き方はよくないと思う。むしろ、あなたが戸籍の上で男であるか女であるかは別にして、あなたはどちらですか、と聞くことはいいのではないだろうか。

○谷川部会長：

これは中学生対象であるならば理解もできるかもしれないが、小学生も入っているので難しいのではないかと考える。私としては、性別についての設問は削除してしまい、性別ごとにアンケートを分析することをやめればよいと思う。あるいは自由記述にして、あなたの性別を教えてくださいにすればいいということも考えられる。

誰も傷つけてはいけないのであり、回収方法も工夫しなければならない。封筒に入れて回収するのであればいいが、学校によっては、書いたら後ろの席から前に送きなさいというかたちをとることも予想される。その回収の段階で、興味本位で性別のところを見られてしまうことにもなりかねない。そういうことはできる限り避けなければいけないと考える。

○事務局：

封筒を準備して回収するような予算的な措置はされていない。分析において、男女別のクロス集計は、これまでもしてこなかったもので、この設問を落とすことは可能と言える。また先ほど石橋部会員が話されていたように、このアンケートをとった結果、男女がほぼ半数くらい回答しているといった情報を載せる必要があるかと思うが、議論の中では、設問はなくてもいいのではないかという意見が大勢を占めていたので、事務局としては削除するかたちでもいいのではないかと考える。

○谷川部会長：

このアンケートについては男女がほぼ同数回答しているということは示しておきたいという意図はよくわかる。しかしながら、私は子どもを傷つけてしまうことはあってはならないと思う。特に人権や福祉に関するアンケートにおいて、人を傷つける恐れがある設問は入れるべきではないと考える。何かあった時に責任の取りようがない。この設問については削除するということがいかがだろうか。

(異議なし)

○谷川部会長：

次に問3の「あなたがホッとできるときは、どんなときですか」についてだが、文面としては「とき」となっているが、よく読むと場面と場所が入り混じっていることがわかる。例えば、「ひとりになってぼーっとしている」は場面であるが、「祖父母の家」や「近所の公園」は場所になっている。前回の計画に詳しく載せているわけではないため、前回との比較をそれほど気にする必要がないのであれば、「動画サイトを観ているとき」「SNSで友だちとやりとりをしているとき」といったように現状に合わせて精査した方がよいのではないだろうか。複数選んでもいいのであれば、できれば場所ではなく場面にした方がよいと思う。

○事務局：

前回の結果を見てみると、「寝ているとき」「家族と遊んだり話しているとき」「友達と遊んだり話しているとき」というような場面がやはり多かったと言える。貧困調査などでは、「ホッとできる居場所はどこですか」という設問が使われることもあるが、

この選択肢はそれらが混じってしまっている感じもする。問5では「どこに多いか」、問6では「本当はどのような場所で過ごしたいか」と場所について聞いている。問3と内容的に被る部分もあることから、部会長が指摘されたとおりに、どのように過ごしているのかという場面に絞って作り直すことを検討したい。

○谷川部会長：

そのようなかたちで見直していただきたいと思う。続いて、問4は「疲れること、不安に思うこと」という設問だが、新たに「SNSでの友達とのやりとり」を入れていただきたい。

○事務局：

先ほど問2のところ、選択肢の並び順を楽しいものを上の方に持ってくるという意見があったが、その順序にすることによって、選択肢の下の方まで読んで選択する意欲が失われてしまう可能性があるという考え方もある。複数回答で多数の選択肢を持つアンケートの設定をする場合は、むしろ何があるかわからないように選択肢を配置した方がいいと思う。その点については、事務局の方で考慮させていただきたい。

○谷川部会長：

「17 仕事・アルバイト」については、順番を下げた方がいいと思う。

○事務局：

それはそのようにさせていただく。どうしても関心の高いものを前半に集めてしまうと、途中から読み飛ばすようなかたちになってしまうと思われる。

○谷川部会長：

それはそうかもしれない。

○事務局：

問3については、もう少し『場面』に特化したかたちで精査させていただく。

○尾崎部会員：

問3の選択肢の中の「ひとりになってぼーっとしているとき」に関連したことになるが、児童館再編成専門部会で子どもたちにアンケートをとったときに、子どもの微妙な距離感ということが話題になった。自習スペースがほしいという要望を児童館に対してするのだが、みんなで頭をつきあわせて自習するのではなく、個別のブースで一人ひとり別々に勉強して、でも同じ室内あるいは建物の中には一緒にいるというくらいの距離感がいい、と回答した子どもがいて話題になった。ひとりがいい、でもひとりぼっちは嫌だ、ということなのかもしれない。

○菅野部会員：

児童館や図書館に昔からある空気感というか、雰囲気のようなものだと思う。ひとりが好きなだけけれども、誰かがいてほしいというような感じか。

○尾崎部会員：

「ひとりになってぼーっとしているとき」というより「ひとりになりたい」の方が強いのではないかと思う。

○谷川部会長：

「ひとりになってぼーっとしているとき」については、「ひとり」と「ぼーっとしている」の2つの意味が入ってしまっている。いまの子どもたちを見ていると、それぞれが携帯やスマホを見ているだけで話すわけではないのだけれども、一緒の空間にすることが大事だったりもする。私たちの世代も特に何かをするわけではないけれども、一緒にいてそれぞれ漫画を読んでいるだけということもあったので、それと同じなのかもしれない。

○古川部会員：

何とも言えない安心感があるのだと思う。人間とはそのような生き物かもしれない。

○谷川部会長：

問2・問3・問4については、これまで出た意見を参考に事務局で精査していただきたい。問5・問6は同じ選択肢だが、「お店」「コンビニ」「ファーストフード店」「本屋」などについては、時代に合わなくなっている感じもするので、見直した方がいいと思う。これについても事務局の方で精査をお願いしたい。

○石橋部会員：

1点確認したいことがある。アンケートの3頁の1行目に「あなたの理想や、これからどうしたいかについて、おききします」という問いかけがあるが、この一文の後の設問で、理想やどうしたいかについて聞いている部分が具体的にどこになるかがわかりにくいと思う。この一文は必要なのだろうか。あるいは理想という感じではないので、言葉を差し替えた方がいいかもしれない。

○谷川部会長：

言われてみると、それは新しい視点と言える。削除してもいいと考える。ここまでは現実を聞いて、ここからはあなたの希望や考えを聞きますというようにわけていたのだと思われるが、この一文が必要かと言えばそうではない。

○事務局：

1頁の中央付近にも「あなたの思いや、今の生活についておききします」という同じ形式の一文がある。これも削除して、その分、余白を設けて見やすくするなどの修正をさせていただきたい。

○谷川部会長：

4頁の「あなたのことやくらしのことについて、どうやって決めたいですか」はかなり難しいと感じる。これらについて聞いて、何に使うのかということが問われると思う。この結果については前回、使われているのだろうか。

○事務局：

ワイワイプランの17・18頁に子どもアンケートから読み取れる子どもの現状がまとめられているが、それがどこまで施策や事業に取り入れられているのかということにはわかりにくいかもしれない。

○谷川部会長：

そのように感じる。

○事務局：

子どもが自分で意見を発したり、社会に参加したりしていく中で、どのようなところに興味を持って関わっていきたいのか。そして、どのような部分を大人や他の人に決めてほしいのかを聞いていく設問だったと思う。

○谷川部会長：

子どもは親と担任は選べないという言葉があるように、子どもが選べない項目が入ってしまっている。校則や学校のルールについては、子どもたちが参画していくことはできるが。

○尾崎部会員：

現行のワイワイプランに掲載されているこの調査結果を見てみると、例えば、他者との関わりについてというところで、「自分や暮らしへの関わり方のうち、『自分で決めたこと』はいずれの年齢層でも、“友達”、“服装・髪型・ファッション”、“恋愛”のいずれかで、『親やおとなに相談して決めたこと』には、生活時間や家庭内のルール、家族のイベントなどが挙げられている。」という約3行の文章と、市や社会との関わりについてというところで、「自分や暮らしへの関わり方のうち、“市の重要なこと”や“お祭りなど地域の行事”などは、『親やおとなに決めてほしい』と考えている人が多い。」というかたちでは反映はされているが、そこから先がわかりにくくなっている。

○谷川部会長：

その通りで施策への反映ということが難しい。聞いて何かできるのであれば聞いてもいいと思う。まちのことについては、内容的に問題はないが、その他についてはもう少し精査が必要と考えられる。しかしながら、アンケートの実施までの間にこの専門部会は開催されないため、この後についてはメールでのやりとりをするかたちとなる。

○石橋部会員：

「宗教など自分の信仰」をここで聞いているが、他の項目と比べて違和感があるのは自分だけだろうか。これは人に聞いて決めるものではなく、自分で決めるものであると考える。

○吉野部会員：

宗教については、親が信仰していると、自動的に子どもたちもそうなる。小学生だとまだわからないかもしれない。

○石橋部会員：

このようなかたちで調査して、どのように施策に反映していけるのかがわからない。アンケートに載せる必要性が果たしてあるのだろうか。

○古川部会員：

現代の子ども像のようなものを知りたいということであれば、このようにバラエティに富んだかたちでもいいと思うが、施策に生かしていくという点で考えるのであれば、子どもたち自身が地域社会の一員として、どのように主体的に関わっていくのかという意思を聞く方が大切なのではないだろうか。まちのことを聞くことは必要だが、それ以外についてはいらないかもしれない。学校の場合は、生徒会などでやってくれるのがいいと思う。

○谷川部会長：

問題は、あなた自身のことや、家族のことだと思う。部分的に違和感があるということだと思うが、宗教については、押し付けられている子どもがいるとしたら、自分で決めたいという項目を選ぶであろうし、無宗教の家の子どもにとってはピンとこないかもしれない。

○吉野部会員：

子どもたちがどのような思いを持って、生活をしているのかということを知るための設問だと考える。バッサリと切ってしまうと、ありきたりな項目しかなくなってしまうかもしれない。まちのことや学校のことプラスして、もう1つ奥に入ったところを聞いているのかな、と私は感じる。聞いてもらえることに意味があるとも思う。

○谷川部会長：

問9については、事務局の方でもう一度練り直していただきたい。ワイワイプランにはこのくらいしか掲載されていないが、アンケートの集計データは内部資料として残っていないだろうか。

○事務局：

集計データは残っている。

○谷川部会長：

その集計データと、練り直したアンケートをメールでお送りいただきたいと思う。その資料が送られてきたら、皆さんからも意見を出していただきたいと考える。

### 3 その他

○谷川部会長：

事務局から連絡事項をお願いする。

○事務局：

次回の審議会は、7月1日（月）午後6時30分より田無庁舎5階503会議室にて開催する。

○谷川部会長：

それでは、本日の内容は終了したので、第5回計画専門部会は閉会とする。

閉会